



和歌山県看護協会
かんごちゃん

黒潮

和歌山県看護協会 会報

第174号

令和8年1月発行

CONTENTS

- ・新年のご挨拶 2
- ・ナース章を受章して 3~4
- ・地域連携のコーナー 5
- ・施設だより 5
- ・特定行為研修修了者の活動について
(トピックス 2025) 6~7
- ・感染管理数珠つなぎ 8
- ・リレーエッセイ 友達の輪 8
- ・私の“Happy Time” 8
- ・訪問看護ステーションだより 9
- ・社会経済福祉委員会 9
- ・助産師職能委員会だより 10~11
- ・認定看護師®フォローアップ研修会 12
- ・和歌山認定看護管理者会 12
- ・看護師職能委員会 I・II 13
- ・訪問看護総合支援センター 13
- ・理事会報告 13
- ・まなぶるにゅーす vol.4 13
- ・ナースセンターだより 14~16
- ・お知らせ、プレゼント 16



医療法人 共栄会 名手病院 ▶ <施設だより>(5ページ掲載)

生きるを、ともに、つくる。

公益社団法人 和歌山県看護協会



発行所 公益社団法人 和歌山県看護協会

〒642-0017 海南省南赤坂17番地 TEL.073-483-1005 FAX.073-483-1266
<http://www.wakayama-kangokyokai.or.jp>

発行人 東 直子

和歌山県看護協会会員数

令和7年12月19日現在 登録者数

会員総数	5,977名
名誉会員	2名
保健師	130名
助産師	220名
看護師	5,542名
准看護師	83名

新年のご挨拶

公益社団法人 和歌山県看護協会 会長 東 直子

新年あけましておめでとうございます。皆様には健やかに新春をお迎えになられましたこと、心よりお慶び申し上げます。無事に新年を迎えることができましたのも、会員の皆様の温かいご支援の賜物であり、改めて深く感謝申し上げます。

昨年の災害により被害に遭われた皆さまには、謹んでお見舞い申し上げます。一日も早い復旧と、穏やかな日常が再び戻りますことをお祈りいたします。私たちも地域の皆さまに寄り添い、力を尽くしてまいります。

医療・福祉の現場では、物価高騰や人材確保の難しさなど、依然として厳しい状況が続いております。そのような中にはあっても、県内の看護職の皆さまが日々の業務に真摯に向き合い、地域の健康と暮らしを支えてくださっていることに、心より敬意と感謝を申し上げます。皆さま一人ひとりの努力が、和歌山の医療を力強く支えております。

令和七年には、長年の念願であった「訪問看護総合支援センター」を開設いたしました。地域で暮らし続けたいと願う方々を支える訪問看護の重要性は、今後ますます高まります。センターの開設は、県内の訪問看護事業所の皆さまを支援し、安心して活動できる環境を整える大きな一歩です。地域包括ケアの推進に向け、看護協会としても実践的な支援をさらに充実させてまいります。

また令和八年は、人材確保事業の一層の強化に加え、看護の資質向上に向けた取り組みを進めてまいります。

看護職が安心して働き続けられる環境づくりと、専門性を高める学びの機会の充実は、地域医療を支える基盤です。厳しい状況だからこそ、未来を見据えた持続可能な看護体制の構築に努めてまいります。さらに、医療・介護・福祉の連携はこれまで以上に重要性を増しています。多職種が互いの専門性を尊重し、同じ方向を見て協働することで、地域の力は大きく広がります。本会としても、連携を促進する中心的な役割を果たせるよう、研修やネットワークづくりを一層強化してまいります。

今年は午年です。古来より午は「勢いよく駆け抜ける」「前進する力」を象徴すると言われています。私たち看護職も、地域の皆さまとともに、確かな歩みで未来へ向かって進んでまいりたいと存じます。訪問看護総合支援センターの開設をはじめ、県内の看護職の皆さまの温かい実践が、和歌山の医療に明るい光をもたらしています。

本年も、皆さまが健やかに、そして誇りを持ってご活躍いただける一年となりますよう、心より祈念申し上げます。本会は、皆さまとともに歩み、支え合いながら、地域の健康と安心を守る力となるよう努めてまいります。引き続き、より一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

皆様のご健康とご多幸をお祈り申し上げ、新年のご挨拶といたします。

看護協会、看護連盟、自由民主党県議団「看護を考える部会」で 和歌山県知事に要望書を提出しました。

要望事項

地域における看護職の安定的な確保と定着を推進するため
ナースセンター事業拡充による看護職確保、定着支援





令和7年度 ナース章 受章おめでとうございます

県難病・こども保健相談支援センター 平井 佳津

この度、栄えある和歌山県ナース賞を賜り、身に余る光栄に存じます。ご推薦くださいました関係者の皆様に心からお礼申し上げます。また、ご指導いただいた諸先輩方をはじめ、同僚の方々の支えがあつたお陰と深く感謝しております。

保健師として色々な経験をさせていただき、地域住民の方々や関係機関・関係者の方々との多くの出会いが学びを教えてくださいました。時代とともに健康課題が変化し、保健師に求められる役割も変化、拡大してきていますが、これからも人との出会い、つながりを大切にし、活動していくたいと考えております。今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いします。

湯浅町役場 伊藤 浩子

この度は、栄えあるナース章を賜り身に余る光栄に存じます。ご推薦くださいました関係者の皆様に心から御礼申し上げます。湯浅町の先輩保健師に憧れて保健師を志し、一緒に働く喜びに胸震え、楽しくて楽しくてしかたなかつた就職当初。あつという間に37年たちました。その間、先輩、同僚はもちろん、保健所や近隣市町の方々からも、ご指導ご支援いただけたことに深く感謝申し上げます。保健師として出会った町民の方々からは、多くのことを学ばせていただきました。その方に、湯浅町で子育てしてよかった、暮らせてよかったと思っていただけるように、これからも活動していくたいと思います。今後ともよろしくお願いいたします。

くしもと町立病院 小山 美代

この度、栄えある和歌山県ナース章を賜り身に余る光栄に存じます。ご推薦くださいました関係者の皆様に心より感謝申し上げます。33年間、助産師業務に従事し1000人を超える分娩に携わり、2世代に亘る母子への支援を通し沢山の経験や感動を得ることができ、私自身成長させていただきました。これまで続けてこられたのも良き出会いに恵まれたこと、周囲の方の支えのおかげと深く感謝しております。近年、少子化が急激に進む中においても多様化するニーズに対する適切な支援が多く求められています。今後も関係機関と連携し、切れ目ない地域の母子保健活動に貢献していければと思っております。今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

和歌山県立医科大学附属病院 向井 知子

和歌山県ナース章を賜り、大変光栄に存じます。推薦くださいました関係者の皆様に、心からお礼申し上げます。長く看護の仕事を続けられたのは、よき先輩方、同僚に恵まれ、家族の支えがあつたおかげと深く感謝しております。

合計特殊出生率「1.57ショック」で騒がれた学生時代、母児と家族の地域での暮らしを想定したケアができなければ助産師の未来はない、当時の教育主事に何度も言われました。令和の今、出産育児の現場だけでなく、医療は病院から地域へ、その人らしく最後まで生きることを支える看護の力が必要とされています。恩師の言葉を胸に、今後も自己研鑽を怠らず、地域社会で必要とされる看護者であるよう精進し続けます。

辻 あさみ

この度は、令和7年度ナース賞を受賞いただき、誠にありがとうございました。これもひとえにこれまでご支援、ご指導いただいた皆様方のおかげと感謝申し上げます。

「看護とは何か」言葉でいうのはなかなか難しいのですが、教育（特に実習）をする中で、患者さんと学生さんからかけがえのない“何か”を感じるときがあります。そして、その“何か”から心が揺さぶられ、深く人を感じることができたとき、「看護」はすばらしいなと思えます。これを繰り返して30年経ちました。そして、こうして長期にわたり看護に携われ、このような立派な賞を受賞させていただけたことに心から幸せを感じております。本当にありがとうございました。

海南医療センター 松尾 真由美

この度は、栄えある和歌山県ナース章を頂戴し、誠に光栄に存じます。ご推薦くださいました関係者の皆様、ご指導、ご支援いただいた方々に心からお礼申し上げます。

長年にわたり和歌山県内で看護職として歩んでまいりましたが、こうしてその努力を認めて頂けたことは、何よりの喜びであり大きな励みとなります。この受章は、支えて下さった患者様やご家族、共に働く仲間のおかげであり、心より感謝申し上げます。微力ではありますが、今後も地域医療に貢献できるよう、『楽しく看護』を実践し、患者様とお世話になった職場の大なかに元気を与えられるよう力を注いでいきたいと思います。本当にありがとうございました。

国保野上厚生総合病院 向 理恵

この度、栄えある和歌山県ナース賞を賜り、身に余る光栄に存じます。ご推薦くださいました関係者の皆様、ご指導、ご支援いただいた上司、同僚、後輩の皆様方に心からお礼申し上げます。そして患者さんやそのご家族の方々に感謝申し上げます。

現在の医療・介護の現場は高齢化の進行や医療の高度化に伴い患者ニーズも複雑かつ多様化しています。住み慣れた地域でその人らしい生活が送れるよう様々な視点からのケアが求められています。これからも安心して療養できる環境づくりに努めて参ります。「地域になくてはならない病院」を目指し、看護の専門性を十分発揮できるよう自己研鑽に努めて参ります。今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願ひします。

和歌山労災病院 遠藤 栄理

この度、栄えある和歌山県ナース賞を賜り、身に余る光栄に存じます。ご推薦くださいました関係者の皆様に、心より御礼申し上げます。

看護師として歩みを続けてこられたのは、ひとえにご指導くださった諸先輩方、支えてくださった同僚の皆様のお力添えによるものです。また、多くの患者様とご家族様との出会いを通じて、学び、成長させていただきました。関わってくださったすべての皆様への感謝の思いで胸がいっぱいです。

今後もこの栄誉に恥じぬよう、ともに働く看護職の皆様と力を合わせ、地域に貢献できるよう微力ながら精進してまいります。引き続き、ご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

日本赤十字社和歌山医療センター 魚崎 操

このたび、県ナース賞という栄えある賞を受賞することができましたことを、ご推薦いただきました病院長はじめ関係各位の皆様、今までご指導いただきました諸先輩、同僚の皆様に心よりお礼申し上げます。

約40年前に和歌山赤十字看護専門学校を卒業し、現日本赤十字社和歌山医療センターに就職し、病棟、手術室、専任教員、看護師長、医療安全管理者と経験してまいりました。特に手術室での経験がその後の看護教育や看護管理、医療安全に大きく影響をしていると感じています。高度化・複雑化する医療現場で、安全・安心な医療を提供できるように、今後とも微力ながら関わらせていただきたいと思います。

中江病院 古川 恭子

この度、栄えある和歌山県ナース章を賜り、身に余る光栄に存じます。ご推薦くださいました関係者の皆様、日頃からご指導いただいた諸先輩方、支え合った同僚、そして家族に心より感謝申し上げます。看護師として多くの患者さんやご家族、他職種の方々と関わる中で、人とのつながりの尊さや貴重な気づき、成長の機会をいただきました。看護実践を通して多くの学びを得ることが出来ました。その人らしく生活できるよう支えることの大切さを改めて実感しております。今回の受章を励みに、一人一人の思いに寄り添う看護を大事にしながらこれからも誠実に努めてまいります。今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願ひ申し上げます。

済生会和歌山病院 廣瀬 朱実

この度、栄えある和歌山県ナース章を賜り、身に余る光栄に存じます。ご推薦くださいました関係者の皆様、これまでご指導、ご支援いただいた方々に心からお礼申し上げます。

看護師としての38年を振り返れば、社会の変化、医療界の変化は著しく、看護職を取り巻く環境も変わりました。しかし、どんな時も私の周りには、よりよい看護・医療を行うために最善を尽くす人ばかりでした。その中で、患者さんや家族の方、同僚や先輩方から多くのことを学び、育てていただいたことに感謝しています。

今後も看護の発展に貢献できますよう、微力ながら尽力いたします。引き続きご指導ご鞭撻いただけますようどうぞよろしくお願ひいたします。



地域連携のコーナー

那智勝浦町立温泉病院

地域医療連携室 魚立 光男

当院が位置する熊野地域は、古くから「よみがえりの地」と知られる靈性豊かな場所です。熊野本宮大社、熊野速玉大社、熊野那智大社から成る「熊野三山」は特に有名で、壮大な自然に囲まれた名湯や、港町ならではの生マグロなど、多彩な魅力にあふれています。

那智勝浦町立温泉病院は、昭和39年7月に地域医療を支えることを目標に開院し、平成30年4月に新築移転してから今年で8年目を迎えました。

当院の地域医療連携室では、「地域の皆様に愛され、信頼される身近な病院を目指す」という理念のもと、医療をより安心して身近に感じていただけるよう、様々なご相談に対応しています。受診や転院に関する相談をはじめ、入院生活や退院後の不安などについて、患者様・ご家族・関係者の皆様とともに解決策を考え、支援を行っています。

県外医療機関からの転院依頼にも積極的に対応しており、急性期治療後のリハビリテーション継続が必要な方や、在宅復帰に向けた支援が必要な方を幅広く受け入れ



ています。さらに、院内には和歌山県立医科大学のリハビリテーション・スポーツ・温泉医学研究所を併設し、若手医療従事者の育成にも力を注いでいます。

また地域連携の強化として、令和5年3月に訪問看護ステーション「ちょうりつ」を開設し、入院から在宅まで切れ目のない医療・看護の提供が可能となりました。これにより、患者様やご家族が安心して住み慣れた地域で生活できるよう、よりきめ細やかな支援を行っています。

今後も地域の医療機関や介護施設との連携を深め、患者様が笑顔で帰っていただける、地域に愛される病院を目指してまいります。

「よみがえりの地」熊野で、リハビリテーションを通じてご自身の生活を取り戻すために、入院・転院のご相談やご紹介を、心よりお待ちしております。

施設だより

医療法人 共栄会 名手病院

看護部長 稲垣 伊津穂



当院は地域密着型中小病院として、急性期から在宅医療まで幅広い看護を担っています。看護部では「共に学び、共に育つ組織」を目指し、日々の実践と教育の両面から取り組みを進めています。

今年度は、看護職員を対象に「倫理的ジレンマ」と題した思考発話研修を実施しました。多様な世代が働く現場では、価値観の違いを前提にした関わりが欠かせません。研修では、日頃の“モヤモヤ”を振り返り、自分の考えを話す機会としました。グループワークでは言語化する“振り返り”を行い、成功体験や課題を共有しながら成長を支援しています。

継続看護では、退院後を見据えた支援の強化に取り組んでいます。在宅療養支援の観点から、病棟・外来・訪問看護ステーション、透析室、地域連携室が連携し、病院内外で同じ情報を共有する体制が整ってきました。患者さんやご家族が自宅での生活をイメージしやすくなるよう支援しています。

また、病院全体の取り組みとして、管理栄養士が監修

し地元飲食店とコラボした“フレイル弁当”は、高齢者の低栄養予防や健康意識向上に役立っています。手作りの温かみや美味しさが評判です。その他に地域の就労継続支援事業所で作られたパンの販売ブースも設けるなど、地域とのつながりも大切にしています。

職員支援の一環として、子育て中の看護職が安心して働ける環境づくりにも力を入れています。急な子供の病気の対応や短時間勤務の活用など、ライフステージに応じた働き方を選べることで、現場には「助け合いの文化」が育まれています。

院内では、看護補助者やリハビリスタッフ、コメディカル職員との連携も活発で、職種間の垣根を越えた協働が進んでいます。日々の情報共有やタスクシフト・シェア会議では、現状を細かく確認し、安全なケア提供に努めています。

これからも、地域とともに歩む病院として、安心して働ける環境づくりと、患者さんの生活に寄り添う看護を大切にていきます。

特定行為研修修了者の活動について

日本赤十字社和歌山 医療センターでの 特定行為研修

日本赤十字社和歌山医療センター 看護部 阿部 雅美

日本赤十字社和歌山医療センターは、地域医療支援病院として、地域包括ケアシステムの構築に向け、急性期医療後に地域へ戻る患者や、在宅生活を見据えた患者へのケアを提供しています。また、救急搬送患者に感染症患者が多いという地域特性から、これらの医療体制の強化が求められており、こうした背景を踏まえ、2019年4月に看護師特定行為研修の指定研修機関となり、「栄養及び水分管理に係る薬剤投与関連」「感染に係る薬剤投与関連」「血糖コントロールに係る薬剤投与関連」の特定行為区分を開始しました。現在は、9区分21行為と2パッケージ（術中麻酔管理領域・救急領域）の研修を実施しています。特定行為研修修了者の活用を推進することで、医師の業務のタスクシェア・タスクシフトが進むだけでなく、看護師が知識や技術が得る機会をもち、患者へのケア介入がスムーズとなり、看護の質向上にも寄与すると考えています。

包括的指示と 具体的指示

特定行為における指示には、包括的指示と具体的指示があります。包括的指示は、医師があらかじめ条件・基準・手順を明確にし、その範囲内で看護師が状況を判断して特定行為を実施できる仕組みです。一方、具体的指示は、患者ごとに医師がその都度内容を指示し、看護師がその指示通りに実施する従来の方法です。当センターでは、特定行為について、包括的指示とするか具体的指示とするかを修了者と検討し、手順書の作成や見直しを行っています。

特定行為を実施した際には、電子カルテ内の特定行為記録に入力し、医師による承認を得ることとしています（写真1）。

直接動脈穿刺による採血

□ 直接指示のもと特定行為を実施する
□ 患者に説明・同意を得る

看護師介入欄

【当該手順書に係る特定行為の対象となる患者】 特定行為実施者：阿部 雅美

□ 1.何らかの原因で経皮的酸素飽和度(SpO₂)が測定できない、または低下がみられたもの
□ 2.二酸化炭素濃度の高値が疑われる場合
□ 3.重篤な酸・塩基平衡障害(代謝性アドーシスなど)が疑われる場合
□ 4.医師からの採血指示があり、静脈からの採血が困難な場合
□ 5.術前検査

→ 満たさない場合 □ 対象外の患者

【看護師に診療の補助を行わせる患者の病状の範囲】 (補足参照)

□ 意識レベルの低下がある
□ 末梢循環不良の徵候がみられる(補足参考)
□ 呼吸回数20回/分以上あるいは、努力呼吸やリズム異常がみられる場合(補足参考)
□ 経皮的酸素飽和度が測定不可あるいはSpO₂≤91%の場合
□ 対象患者04、5については確認すべき事項に異常がなければ病状の範囲にかかわらず施行可能とする
※上記どれかひとつも項目を満たす場合に血液ガス測定を認める
□ 上記に示した病状の範囲に該当し、かつ、当該患者の状態について実施者が一人で対応することができる

→ 病状の範囲外 □ 指導医に連絡

担当医師のPHSに連絡
夜間・休日は当番医PHSに連絡

【診療の補助の内容】

□ 直接動脈穿刺による採血(大腿動脈、橈骨動脈) ※第一選択としては大腿動脈を選択する

→ 異常時の報告 □ 指導医に連絡

穿刺部位の皮膚に異常がある場合は、穿刺部位の変更を考慮する。施行中の対応策をとっても異常がある場合は、医師に報告、対応を相談する。

【特定行為を行うときに確認すべき事項】

【施行前】

□ 出血傾向がない
※血液データ、PT-INR2.5以上、PLT 5万/ μ L以下、APTT60秒以上の場合は出血傾向なし、対象外とする
※t-PA中は対象外とする
※抗凝葉の内服、ヘパリン投与中は、実施時に注意する。
□ 穿刺部位の皮膚の異常(動脈瘤、人工血管、内シヤントなど)がない (補足参照)

□ 穿刺部位の皮膚の異常(局所の感染徵候など)がない
□ 自覚症状(痛みやしびれなど)がない

【施行中の対応策】

□ 抗血栓葉の内服、ヘパリンの投与があれば、圧迫時間を長く対応する

→ 異常時の報告 □ 指導医に連絡

異常がみられた場合は医師にすぐに報告、指示をもらう

【特定行為を行うときに確認すべき事項】

【施行後】

□ バイタルサインの著しい変化 ⇒ □ 有 □ 無
□ 自覚症状(痛み、しびれなど) ⇒ □ 有 □ 無
□ 血腫や出血など穿刺に伴う合併症 ⇒ □ 有 □ 無

【医療の安全を確保するために医師との連絡が必要となった場合の連絡体制】

指示した医師
【特定行為を行った後の医師に対する報告の方法】

□ 1. 指示した医師 ※血液ガスの結果が緊急性のある場合、直接連絡する
□ 2. 診療記録に記載する

□ 記載内容を確認し、必要十分な記録と評価する。
□ 記載内容を確認した結果、必要な情報が不足していると判断しました。理由は以下の通りです。

保存 | 保存せず閉じる

写真1 特定行為記録

現在、25名の特定行為研修修了者が在籍しています。活動は、救急外来、手術室、ICU、創傷関連、血糖コントロール（外来）を中心に行っています。

救急外来には5名の修了者が配置されており、主に直接動脈穿刺や橈骨動脈ラインの確保を行っています。救急外来では、具体的な指示に基づき特定行為を実践しています。

救急患者が非常に多い状況でも、医師とのタスクシフト・タスクシェアが進み、協力体制が整いつつあると考えています（図1）。また、救急外来では、計画的な教育を実施しており、修了者数も増加しています。

ICUでは6名の修了者が在籍しており、今年度から活動を開始しました。毎日1名が日勤に勤務し、

特定行為 研修修了者の 活動

図1 救急外来・特定行為実施件数

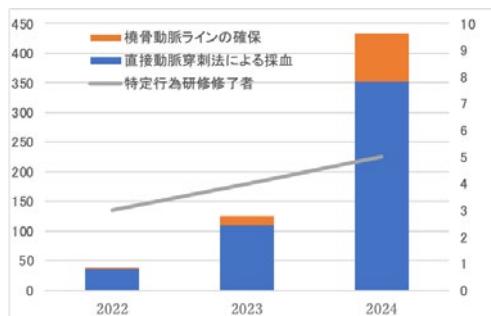


写真2 気管チューブの位置の確認



毎朝、人工呼吸管理中の患者の経口用気管チューブの位置を確認しています（写真2）。それ以外にも、侵襲的陽圧換気の設定変更、医師との治療方針のディスカッション、スタッフへのケア指導にも役立てています。

今後は、一般病棟でも特定行為を実践できるよう、環境を整備していく予定です。

術中麻酔管理領域 パッケージ 修了者の実践内容

手術室では、特定行為研修修了者が医師と密に連携し、手技の補助や患者管理を協働で行っています。麻酔管理や血管確保、術中モニタリングなどの場面で、修了者が医師の指示に基づき適切に対応できる体制が整っており、安全で円滑な手術遂行に寄与しています。

- 1 経口用気管チューブ又は
経鼻用気管チューブの位置の調整**
- 2 侵襲的陽圧換気の設定の変更**
- 3 人工呼吸器からの離脱**
- 4 直接動脈穿刺法による採血**
- 5 桡骨動脈ラインの確保**
- 6 脱水症状に対する輸液による補正**
- 7 持続点滴中の糖質輸液又は
電解質輸液の投与量の調整**
- 8 硬膜外カテーテルによる鎮痛薬の投与
及び投与量の調整**



担当看護師と
ミニカンファレンスを持ち
麻醉プランと看護計画を
共有し、多角的にリスク評
価を行っています。麻醉医
と看護師の橋渡し的役割
も目指しています。



マスク換気
挿管チューブ位置調整
腹腔鏡下手術では気腹
後横隔膜上昇によりチュー
ブが深くなります。患者自
身の肺の状態と術式をアセ
スメントし調整します。



桡骨動脈ライン確保
医師の視点では術式・手
術体位で穿刺部位を選定
していますが、それに加え、
患者の利き手や職業を考
慮し、部位を選定していま
す



呼吸器設定変更
人工呼吸器からの離脱
血液ガス結果を評価し、
例えばPaCO₂が高値であ
れば換気回数の変更や呼吸
器モード変更を麻醉医に
提案し実施しています。

特定行為研修の 組織定着化支援事業 への参加

特定行為研修の組織定着化支援事業は、看護師の特定行為受講や研修修了者の活動を推進する指定研修機関である医療機関等に対し、財政的・技術的支援を行うことで、研修修了者の増加と円滑な活動環境の整備を図り、医療の質向上を目的としています。

今後は、各部署における教育計画や手順書の整備、医師との協働体制の強化を進め、研修修了者の活用を促進するとともに、研修制度の継続的な改善を図る方針です。

感染管理数珠つなぎ

和歌山県立医科大学附属病院紀北分院

感染管理認定看護師 田中 治美



感染対策への取り組み

当院は、和歌山県北部のかつらぎ町にある小規模病院で、地域に密着した医療の提供を目指しています。感染対策向上加算Ⅱを取得しており、私は、感染制御室と病棟看護師長を兼務し、感染対策に取り組んでいます。

兼務のため活動時間は限られていますが、感染対策チームで、多職種連携を意識して活動を行っています。たとえば、各職種それぞれが自部署の手指衛生使用量をチェック、評価、フィードバックを担当してくれています。多職種で協力し、それぞれの考え方を理解できることは、組織横断的に活動する感染管理認定看護師にとって良い学びになっています。

また、橋本保健所管内の感染管理認定看護師と保健所が協力し、地域の感染対策のボトムアップを目指し、ラウンドや研修会を実施しています。他施設の方との活動は、情報共有という貴重な場であるとともに、私自身の良い気分転換にもなっています。

今後もこのような取り組みを継続し、地域の感染対策に貢献できるように頑張っていきます。



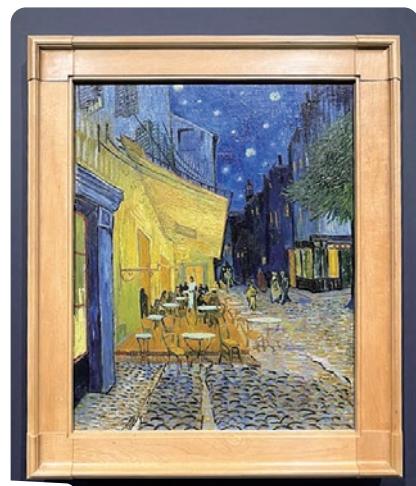
リレーエッセイ

友達の輪 Vol. 81

和歌山市保健所 岡 美行

「言霊」ってご存じですか？人生長いと色々あって大変な時にこそ「ケセラセラ～なるようになる♪」と自分自身に唱えるようになりました。人生を楽しむなければと今流行の「推し活」にもはまり。夢を追いかけて全力で頑張る彼らの姿に癒しとエネルギーをもらっています。この写真は大好きな推しアーティストグッズを集結させました。ちなみに「一期一会」って言葉も大好きで、人とのつながりの大切さを実感しています。

次回は、和歌山市西保健センター
山崎 静香 様をご紹介いたします。



私の“Happy Time”

日高看護専門学校 木下 学

私の Happy Time は旅行です。以前は「退職したら〇〇に行きたい」と遠い未来を夢見していましたが、COVID-19 によるロックダウンを経験してから「行きたいときに行かないで行けなくなる」と考えが変わりました。今では 2 日休みが取れたらすぐ行動。写真は神戸のゴッホ展での一枚。楽しい反面、車の走行距離が増え、自動車保険を見直すことになりました。

次回は、橋本市民病院
藤川 恵司 様の“Happy Time”です。



訪問看護 ステーション だより

訪問看護ステーション みなと

管理者 志村 秋子

那智勝浦町にある当ステーションは、2021年5月に開設した、看護師4名、事務員1名の小規模なステーションです。現在、那智勝浦町を拠点に、新宮市、太地町を含めた地域を訪問しています。地域の高齢者を中心に、住み慣れた自宅で安心して暮らせるよう支援しています。みなとの由来は、「地域のみんなと」という意味が込められています。海と山に囲まれた自然豊かな環境の中で、利用者様、地域の人々との温かい関わりを大事にしながら、健康管理や医療的ケア、終末期のサポートまで行っています。看護師の平均年齢が36歳と比較的若いステーションですが、看護が大好きなスタッフが、「その人らしい」とは何かを探究しながら頑張っています。今後は新卒看護師を受け入れできるよう教育体制を整えて、「この町にこのステーションがあつてよかった」と、末永く愛されるステーションになれるよう日々奮闘していきます。近くにお越しの際はぜひお立ち寄りください。

社会経済福祉委員会 より

◆「禁煙アドバイザー養成講習会」を受講して

社会経済福祉委員会 出原 明美

この度、第308回禁煙アドバイザーネイ成講習会にオンライン参加しました。産業医研修では、「KKEに学ぶ禁煙支援のエビデンス」「職場の禁煙推進とタバコモード一対策」、理事長講演では「二十歳の集いでたばこアンケート調査を中心にして」の講義でした。

加熱式・紙タバコとともに、ニコチン依存・健康被害は同様です。加熱式たばこの全国展開後は禁煙外来受診者数が減少し、ニコチン依存症管理料の初回算定数の激減となりました。

会社で禁煙対策を進めるのは、改正健康増進法や受動喫煙防止によるものだけでなく、「メンタル対策」「労災」「生産性の向上」が挙げられます。また、禁煙教育においても教育の継続校では有意に喫煙率が低下したと報告がありました。

今年、「ゾンビたばこ」と表現されるエトミデート（未承認医薬品）が沖縄で確認されています。身体の制御を奪う症状がゾンビのようと例えられています。若者を中心とした未承認薬物の乱用などの問題もあります。

社会全体の禁煙意識が高まっていますが、新型タバコが急増し新しい問題と同時に喫煙率も増加し、新たな局面に入ったと実感しました。

◆「看護職のウェルビーイングを重視した働き方研修」を実施しました

社会経済福祉委員会では、ワークライフバランスについて、日々の悩みを共有し、スタッフとともに元気で働けるよう、ウェルビーイングについて学び、働きやすい職場づくりに取り組めるようになることを目的に施設の管理者対象に研修会を開催しました。

まず、令和6年度に実施した「ワークライフバランスについての実態調査結果」を委員会より報告し、現在実際に行われている各施設のワークライフバランスの取り組みについて共有しました。次に和歌山県ナースセンターから「求職者の現状と課題」として求職者の多様なニーズや現状を報告しました。

そして、看護の将来ビジョン2040年を踏まえ、「看護職のウェルビーイングを重視した働き方」として日本看護協会常任理事の淺香えみ子先生よりご講演いただきました。

WEB・会場合計で参加者は24名でした。「管理者としてウェルビーイングを意識した多様な働き方を考える」をテーマとしたグループワークでは、活発な意見交換が行われ、他施設の取り組みを知ることができ、新たな視点を得ることができた。などの意見が聞かれました。

今後も、社会経済福祉委員会では「働き続けられる職場づくり推進」にむけて取り組んでまいります。今回、ワークライフバランスのアンケートに回答頂いた施設の方、また、研修に参加してくださった皆様ありがとうございました。



令和7年11月10日(月)
13:30～16:00
和歌山県看護研修センターにて

助産師職能委員会では、昨年度から委員会活動や県内の各施設の取り組みなどを紹介しています。
今回は、連携をテーマに3施設の取り組みと委員会活動について紹介します。

～多職種と連携した女性とその家族の健康づくりの支援～

◆ 橋本市民病院の取り組み

橋本市民病院 高水 佳代



橋本市民病院では、地域の中核病院として、安心、安全な出産環境の整備はもちろんのこと、合併症を伴う妊娠などにも対応しています。その中で、当院の助産外来では1週間・1か月健診時にお母さんの不安や悩みなどを丁寧に聞き取りながら、安心して家庭生活を送れるよう支援しています。病棟所属の助産師が助産外来を担当するため、特定妊婦や気がかり妊婦など特に支援が必要なお母さんに対しては、地域の担当保健師とカンファレンスを実施しながら密に連携を図る事ができます。

また取り組みの1つとして、退院後から1週間健診までの間、分娩を担当した助産師が電話訪問を行っています。退院後、不安に感じるこの時期に電話訪問を行うことで、退院してからの授乳や育児の事、お母さんの体調や赤ちゃんの様子を聞きとり相談にのることができます。また、双方に印象に残っていることから、お母さんからは「顔見知りなので色々聞けて良かった」「家族以外の人と話せてリフレッシュになった」と好評を得ています。

出産はお母さんや家族にとってとても貴重な経験です。「誕生の記念を彩る思い出の場を作れたら」という産科スタッフの思いがつまった温かみのあるスペースを作り、年内に病棟内にフォトスポットがオープン予定です。場所の選定、飾りつけなど1つ1つ丁寧に考えながら作りました。SNSでの発信や口コミを通じて当院の魅力を拡散していくたいと思っています。

「FMはしもと」という地域FMの「おはよう橋本市民病院」という番組でも助産師が出演し当院産婦人科の魅力を語っています。WEBサイトからも視聴できますので皆さん是非聴いてみて下さい。

◆ 多職種連携の取り組み

新宮市立医療センター 出会 純子



当院では週1回周産期カンファレンス、月1回特定妊婦会議を行っています。周産期カンファレンスでは当院産科医、小児科医、病棟助産師、外来助産師、看護師が集まり、妊娠期から産後早期に生じうる課題について共有し支援につなげています。

特定妊婦会議では、新宮市子育て推進課の保健師が参加し、身体医学的なりリスクのあるハイリスク妊婦と社会心理学的・精神医学的风险のある特定妊婦を対象に保健師による家庭訪問や電話訪問、母親学級や両親学級での様子などの情報提供を受け、当院での外来受診の様子や出産時や入院中産後健診時の様子など情報共有を行ない支援につなげています。外来から産後健診の継続した支援の中で、保健指導だけでなくニーズがあれば社会資源の紹介や状況に応じ対応をしています。

地域コミュニティの希薄化や多様な家族形態、また核家族化が進み、産後の母親が孤立しやすい現代において、周産期の母子をケアする助産師の存在は非常に重要です。特定妊婦に関しては、様々な職種が連携し積極的に関わっていく必要があります。院内のみならず地域に視野を広げ、連携にあたっては、定期的に情報交換をおこない密接に連携をとる必要があります。それぞれの妊産婦の背景だけでなく社会情勢も考慮しながら、妊娠期から子育て期まで切れ目のない母子への支援を充実させていきたいと思っています。



◆院内助産の開設 ～助産師主体の取り組みを形に～

紀南病院 西 志乃歩

当院では今年度、院内助産を開設しました。これまで正常な妊娠経過の方を対象に助産師外来で妊婦健診を行い、分娩や産後のケアにも助産師が主体的に関わってきました。しかし、医師をはじめとする多職種との連携体制や対応基準が文書化されておらず、個人の判断に委ねられていたことが課題でした。そこで、日本助産師会の「助産業務ガイドライン」に基づき、院内助産に必要な体制整備を行うことで、安全管理体制が強化され、多職種との連携もより円滑になりました。

また、基準を明文化することで助産師が主体制をもち、必要時には医師が迅速に対応できる安全な分娩体制を整えることができました。実際の助産内容は従来と大きく変わりませんが、「院内助産」という形として示すことで、妊産婦が安心して自分らしいお産に臨むことができるようになりました。さらに助産師一人ひとりが専門職としての役割を再認識し、より主体的に関わる契機になりました。その結果、助産師の自律性が高まり、モチベーション向上やチーム全体の活性化につながっていると思います。

妊娠期から産後までの切れ目ない支援を大切にし、母子の健康だけでなく、その家族全体の心身の安定を支えることが、母子とその家族の安心感や満足感につながると考えます。今後も母子とその家族に寄り添い、多職種と連携しながら地域に根ざした温かい助産ケアの提供と、助産師の質の向上を目指していきたいと思います。

助産師研修会・職能集会・交流会について

- 第1回研修会（CLoCMip レベルⅢ認証研修）を8月23日（土）に開催しました。

「妊娠婦のフィジカルアセスメント」

講師：和歌山ろうさい病院 吉村 康平氏 参加人数 17名

「不妊・不育の悩みを持つ女性の支援」

講師：日赤和歌山医療センター 庄田 優子氏 参加人数 8名

わかりやすく興味のある内容で、妊産婦指導にも活用できると好評でした。

助産実践能力向上のために、日々の実践に生かしていきたいと思いました。

- 助産師職能集会を10月18日（土）に開催しました。

「妊娠中の栄養」

講師：和歌山信愛短期大学教授 岡井 明美先生 参加人数 20名

和歌山県民の健康課題などわかりやすく説明され、一人ひとりが若いうちから健康リテラシーを高めることが大切であると学びました。



第2回研修会は(2/21)、和歌山県立医科大学准教授 上野 美由紀氏をお迎えし「助産師教育」について講義していただいた後、産科管理者が交流できる内容を企画しています。皆様のご参加をお待ちしています。

令和7年度 認定看護師® フォローアップ研修会の報告

11月29日、看護協会にて、認定看護師® フォローアップ研修会を開催しました。今年度のテーマは「認定看護師® をアピールする実践報告」です。当日は、県内の認定看護師® 67名の参加がありました。

まず、橋本市民病院の神保先生、新宮市立医療センターの二河先生から「看護管理者視点での認定看護師® 活動支援について」を講義いただきました。2名の看護管理者から、自施設の現状・実績の公開とともに、認定看護師® と看護管理者、双方の役割理解が認定活動の質向上に繋がることを学びました。また、講義中の二次元コードを用いたLIVEアンケートも行われ、即座に出たアンケート結果に会場は盛り上がりいました。

さらに、5名の認定看護師® からの実践報告では、具体的な活動方法や、その評価、広報活動に関する内容が発表されました。講演をうけ、受講者からは「認定活動を理解してもらえないと思うのではなく、支援を受けるためのアプローチや交渉力が必要」「自施設はもちろん、地域のニーズも考えた活動を意識していきたい」といった意見がありました。

今後、広く一般の方にも認定看護師® の活動を認識いただくように、精一杯活動していきたいと思います。



和歌山認定看護管理者会からのご案内

和歌山認定看護管理者会では看護管理者の皆様を少しでも支援できるように、よろず相談と出前講座の運営を行なっております。皆様、困りごと・悩みごとはありませんか。

よろず相談について

看護管理者の皆様が日頃抱える「小さな悩み」から「ちょっと聞いてみたいこと」までどんな内容でも気軽に相談いただける場です。個別訪問もしております。

◆ 気軽に利用してください 小さなもやもやでも大歓迎です。話をしながら一緒に整理していきます。

◆ よくある相談 スタッフ間のコミュニケーション | 新人・若手育成について
委員会・会議運営の工夫 | 管理者としての判断の迷い

申し込み方法

看護協会に申し込み用紙に
FAXまたはメールをする

看護協会は、相談対応者を決め、
依頼施設と日程調整を行ない連絡する

相談対応者は施設の
課題を聞き対応する

出前講座について

施設に出向き、看護管理者対象に講義（90分）を行ないます。

お気軽にお申込みください。不明な点があれば看護協会岡室まで連絡ください。



看護師職能委員会 I

11月26日（水） テーマ：カラダ大改造～姿勢が変わればカラダが変わる～

上記テーマで交流会をしました。体を動かしリフレッシュでき、普段の日常生活にも取り入れられるものだったので良かったです。明日からの業務を頑張ります。看護師職能委員会Iは病院を中心に活躍しています。現場でのご意見をお聞かせていただき進めてまいります。

看護師職能委員会 II

11月28日（金） テーマ：自施設における危機管理～多職種で乗り越える危機管理 介護現場で起こった事例～

を講義いただき、その後交流を行なっています。沢山の施設参加があればもっと盛り上がる意見をいただきました。今後も皆様の参加をお待ちしております。

訪問看護総合支援センター

令和7年4月から当センターを開設しました。相談窓口を設置し、相談対応を行なっております。訪問看護の質向上のため、研修会・アドバイザー派遣もおこなっております。現場のお声を聞き、進めていきますのでよろしくお願いいたします。

令和7年度 第5回理事会

日時：令和7年12月11日（木） 13:30～15:30

場所：看護研修センター 大ホール

I. 決議事項

- 令和8年度の重点事業（案）について
- 令和8年度の事業計画（案）について
- 令和8年度の研修一覧概要（案）について
- 給与規則の一部改正（案）について
- その他

II. 報告事項

- 日本看護協会理事会報告
- 日本看護協会主催会議報告
- 県内関連団体会議参加報告
- 和歌山県看護協会通常総会の開催について
- 令和8年度和歌山県看護協会長表彰候補者の推薦の依頼について
- 会員数について
- 地区支部に関する書類提出についてのお願い
- その他

まなぶるにゅーす

vol. 4

定期的に
マナブルに関する
ご質問にお答えします！



勤務の都合で、申し込んでいた研修が受講できなくなりました。
キャンセルできますか？



キャンセルは可能です。研修のお申込み後に参加が難しくなった場合は、
必ずキャンセル手続きをお願いいたします。



キャンセル手順

キャンセル
したい！

キャンセル期日前

ご自身で
お手続き
ください

ご自身でマナブルでキャンセル手続きをお願いします。

【手順】マナブルにログイン後
マイページ→自分の研修→対象の研修を選択し「キャンセル」ボタン
※ご注意ください。一旦納入された受講料は返金いたしません

キャンセル期日後

協会へ
ご連絡ください

研修受講料
支払済

一旦納入された受講料は返金いたしません。
※キャンセル期日前にお支払いされた受講料も対象です

ご相談ください

★研修受講者の変更
(施設申込の状況によりご対応できる場合があります)

★WEB研修への変更

(同一研修にWEB研修が設定されている場合)

研修受講料
未払い

受講の有無にかかわらず受講料のお支払いが
必要です。

ご不明な点があればいつでも看護協会へお問い合わせください





ナースセンターだより

あけましておめでとうございます。本年もよろしくお願いいたします。和歌山県ナースセンターでは「新規養成」「定着促進」「復職支援」の3本柱に加えて、「領域・地域偏在の調整」について取り組んでおります。令和6年度より地域の基幹病院と看護師養成所による小学生対象の「**ジュニアナーシングスクール 2025 集まれ 未来の看護師さん!!**」の開催を事務局として支えております。全国の看護師養成所のうち、1割近くの課程が募集停止していると報じられる中、将来の地域医療を支えていくためにも、参加された小学生の皆さんとの進路選択につながりますよう祈念しております。



10/11 国保野上厚生総合病院×
国保野上厚生総合病院附属看護専門学校



10/18 新宮市立医療センター×県立なぎ看護学校



11/8 紀南病院×紀南看護専門学校



11/22 ひだか病院×日高看護専門学校

【参加児童の感想】

- あかちゃんの人形も、とても可愛かったです。白衣には色々な色があることを知れて良かったです。**将来、看護師になりたいと興味を持ちました。**
- 今回看護師の勉強をしたことでのいつも病院にいてくれるありがたみを感じることができました。

【保護者の感想】

- 看護師に興味を持ち前向きに考えるようになりました。なりたいという気持ちが本人も強くなり、とてもいいイベントでした。
- 学校の職業体験では看護師さんの体験は無いので、どういうお仕事なのかを知るとても貴重で良い体験が出来ました。

転職・職場の悩み・復職・進学なんでも ナースのお仕事相談

	ハローワーク和歌山	ハローワーク田辺	県ナースセンター	オンラインお仕事相談
	第2・4金曜日	第2火曜日	平日	第4火曜日
	14:00~16:00	13:30~15:30		13:30~15:30
令和8年1月	9日・23日	13日		27日
2月	13日・27日	10日		24日
3月	13日・27日	10日		24日
予約電話 番号等 (予約制)	和歌山市美園町5丁目4-7 073-483-0234 073-483-1005	田辺市朝日ヶ丘24-6 0739-22-6262 ハローワーク田辺 職業相談窓口	海南市南赤坂17 073-483-0234 073-483-1005	

無料個別相談です。お話ししたこととは外することはありません。安心してご利用ください。

*地域の経験豊かな復職支援コーディネーターとナースセンター職員が対応させていただきます。 *雇用保険失業給付受給中の方の求職活動実績になります。



起業する看護職

～社会課題を自分事として～

訪問型病児保育アムレットを起業された福田 彰美さんに、起業の経緯や日々の業務内容、そしてeナースセンターを活用して看護職の人材確保をスムーズに進められた経験についてお話を伺います。



訪問型病児保育を立ちあげたきっかけや背景について

病院勤務していた時、同僚の看護師が我が家への体調不良で謝罪を繰り返しながら早退していく姿を何度も目にしました。残される側も気持ちよく送りだすことは難しく職場全体がぎくしゃくとした雰囲気に包まれてしまいました。しかし、子どもが熱を出すのは当たり前のことでも誰も悪くないし誰にも落度はありません。エベーテーの前で肩を落とし小さくなつて帰つていく同僚の姿を見っこに大きな社会課題があると実感しました。この課題を解決したいと思いつが起業を志すきっかけになりました。

1日の流れや具体的な業務内容について

病児保育は当日の依頼が多く、朝は8時前から対応しています。保護者が出勤する15分前に自宅に到着し、子どもの様子について引き継ぎを受けます。具体的には食事の準備や好きな遊び、トイレ（おむつ）の場所、投薬の有無などを確認します。日中は、子どもの様子を写真に撮つて母親にラインで報告し、安心して仕事を集中していただけるように心掛けています。保護者が帰宅したら、お預かり中の子どもの様子を申し送ります。連絡票（カルテのようなもの）を記入しているので、それに沿つて詳しくお伝えしています。お預かりする子どもの多くは回復期なので看護と保育が中心です。

仕事の中で「やつていて良かった」と感じる場面

「アムレットがあつて良かつた」「選択肢が増えた」といった言葉をいたいた時に大きなやりがいを感じます。特に「安心感が本当に大きい」「罪悪感が減った」といった言葉はまさにアムレットの存在価値を表していると思います。ある母親から「いろいろ手段を試したけれど難しく绝望感の中で、あーアムレットがあつた!」と思い出した時、「勝つた!まだ一ける!諦めなくて良い!」と思えた」という言葉をいたしました。アムレットが大きな存在になつていることを知り、とても嬉しくなりました。

起業や運営の過程で大変だったことについて

まず起業の方法がわかりませんでしたし、ニーズはあるのに行政に伝えてもなかなか理解してもらえませんでした。訪問型の病児保育は認可外保育園扱いになり和歌山市では補助金も受けられません。またベビーシッター文化が浸透していない和歌山市では、訪問型の認知度はほぼゼロでした。起業スクールや経営者「ミユ二ティ」に参加し起業・経営のノウハウを学び、認知拡大のためにビジネスコンテストに出場したりメディアを活用したり、とにかくいろんなところに出かけてプレゼンしました。現在もさまざまな困難や課題に直面していますが、あの時の同僚の姿を思い出し、「必ずここを救つ」という使命感が原動力です。

スタッフ募集の際、eナースセンターに求人登録後すぐに応募があつたことについて

アムレットは社会課題解決型の事業です。退職しつづけになってから分かることは、看護師の社会的信頼や期待値の高さ、そして役割の幅の広さでした。その期待に応えたい、社会のために専門知識を役立てたいという看護職がいることをeナースセンターを通じて知り、とても心強くうれしく思いました。

事業を通じて、今後どのような展開や目標を描いていらっしゃいますか。

訪問型の病児保育には施設型の病児保育とは違うメリットが沢山あります。私の目標は、病児保育のアムレットモ^トルを確立し全国に届けことです。体調不良の子どもが慣れた環境で安心して療養でき、親は「任せせて大丈夫」と思える。子どもにとつても親にとつても無理のない選択肢がある社会の実現のため、そのお手伝いができる、と考えています。



嶋 病院

「温もりある看護」を目指して

看護部長 福壽 和美



今年5月1日に和歌山市中之島に新築移転しました。

病棟は内科一般病床19床、地域包括病床38床の計57床で、10:1看護基準と看護補助者充実加算をとっています。透析室はベッドが22床あり、月・水・金は2クール行っています。病棟は2交代勤務で夜勤は看護助手1名看護師2名の計3名で対応しています。

手1名看護師2名の計3名で対応しています。夜勤専従もいるため、日勤常勤で働くことも可能です。外来在宅部は、外来診察の介助はもちろんですが、在宅医療としてドクターと共に診察に出かけます。

1年間の休日数は120日、有給取得率100%近いため、プライベートも充実させることができます。定時に終わることが多く、ひと月の平均残業時間は8時間程度です。職員駐車場も広く職員の駐車場代は無料です。平均年齢は40台後半、定年が65才で、

幅広い年齢層が働いています。お昼に給食を希望した場合は1食350円です。平日の昼食は、職員専用メニューがあり、週に2~3日ですが、有名店の味・定番の味・みんなが大好きな味で、病院ではないランチタイムを楽しむことができます。

年に何度か患者さんのための院内レクリエーションを開催しています。たこ焼きパーティは好評で何度か行いましたが、今年はアイスパーティをしました。

「温もりある看護」の看護部理念のもと高齢化社会に対応し地域のニーズに応えられる病院を目指しています。新しい職員も増えつつあり、内外共に新しくなっていくこれからの中と一緒に作っていきませんか。



